多言語対応で、ドイツ語の高度授業TAも利用しやすい新LMS。作文課題の提出やフィードバック、グループワークに活用中

2020年度に、全学での導入を予定している新たな授業支援システム（以下、新LMS）。生駒教授が担当する「独語実践演習IIIA」では、ひと足早く2019年度春学期からトライアルとして利用中だ。以前から、新LMSと同様のシステムMoodle（世界で最もメジャーなLMSの一つ）を独自に使ってきた生駒教授は、多少の使い勝手の違いはあるというが、新LMSへの移行もスムーズで、授業では作文の提出やフィードバック、グループワークでの情報共有など、新LMSを積極的に利用している。

政治経済学術院
生駒　美喜　教授

多言語に対応している新LMSは、海外出身の学生にはCourse N@viより使いやすい

以前の科目を引き継ぐ形で、2019年度にスタートした「独語実践演習IIIA」。ドイツ語を2年以上学習するなど、基礎レベルのドイツ語は習得済みの学生が対象で、授業ではドイツ語の政治・経済に関する文献を読みながらその内容についてグループでディスカッションを行い、ディスカッションを基にグループ発表を行っている。新規科目のため、この科目に関しては「新LMSの導入前と導入後」といった比較はできない。ただ生駒教授は、以前から他の科目で新LMSとベースが共通のMoodleを使用しているという。

「Course N@viも必要に応じて使いますが、グローバルエデュケーションセンター（GEC）全学共通副専攻「ドイツ研究」が設置した独自サーバー内にMoodleを入れて、そちらをメインで使っています。Moodleを使う理由の一つは、多言語対応だからです」。授業には

ドイツ語圏出身の高度授業TAがいるため、ドイツ語に対応していないCourse N@viは使いづらいという。「Moodleは複数の外国語に対応しているだけでなく、利用者ごとに言語を設定することができます。たとえば、私が見る画面は日本語表示でも、ドイツ語圏出身のTAの画面では同じものをドイツ語で見られるのがメリットです」。もちろん、同じMoodleをベースにしている新LMSでも、多言語に対応しているのは変わらない。

新LMSでは、ドラッグでの順番入れ替えやファイルの追加が便利に

では、これまで利用していたMoodleと今回の新LMSでは、どんな違いがあるだろうか。実は、生駒教授が使っていたMoodleのバージョンは、最新ではないという。「理由は、必ずしも新しいほうが使いやすいとは限らないからです。そのため、3～4年前に導入した当時のバージョンを使い続けています」。バージョンの違いもあり、今回の新LMSとは使い勝手に違いがあり使い始めた当初は多少戸惑いもあったとのこと。

「たとえば、メニューの一覧を見たいときの操作が違っていました。これまで使っていたものではメニュー一覧がすぐに見られましたが、新LMSでは『さらに』をクリックする必要があり、一つ操作が多くなりました」。他にも細かい違いはあったというが、一方で、操作性が向上したところももちろんあるという。「新LMSでは、コンテンツの並べ替えがドラッグだけでできるので便利ですね。また、ファイルをアップロードしたいときもドラッグ＆ドロップで完

了するので、非常に簡単になりました」。ちなみに、ドラッグ＆ドロップによるファイルのアップロードは、Course N@viでもできなかったことだ。

新LMSのグループフォーラムの機能は、グループワークに欠かせない

機能の違いはあったものの、独自導入のMoodleを使っていたからこそ基本的に移行もスムーズで、「独語実践演習IIIA」の授業では、すでに新LMSを十分に活用しているという。「主な用途は2つで、一つは作文課題の提出とフィードバックに使っています。この科目では、毎回学生にドイツ語の作文を書かせていますが、新LMS上にアップロードして提出してもらっています。

提出された作文課題は、ドイツ語圏出身の高度授業TAがチェックし、Wordファイル上で「変更履歴の記録」と「コメント」を用いて添削の上、新LMSにフィードバックファイルとしてアップロードしてもらっています。翌週の授業までに私がフィードバック後のデータをダウンロードして、印刷し、授業時に高度授業TAから返却してもらうようにしています。
返却の際、高度授業TAから履修者一人一人に口頭でもコメントをしてもらうようにしています。
もちろんCourse N@viでも可能ですが、ファイルのダウンロード、アップロードがやりやすいと思います」。

また新LMSは、グループワークにも欠かせない存在だという。「新LMSのグループフォーラムに、それぞれのグループのトピックを作って、その中で学生同士が情報を共有するようにしています。新LMSにアクセスすれば、すぐに状況を把握できるのが便利です。学生については、自分のいるグループの情報のみを見られる『分離グループ』に設定しています。発表が終わるまでは、お互いの内容を知らないほうがいいだろうという判断です」。

一方、教員側はすべてのグループを見ることができ、特に高度授業TAは、各グループの更新状況などを常にチェックしているという。「たとえば、ドイツ語の文章やプレゼン用のPowerPointファイルがアップされたときには、ドイツ語の間違いなどを確認してもらっています」。また、フォーラム内の掲示板の内容についても、必要に応じて高度授業TAがアドバイスを提示しているという。「フォーラム機能をうまく使うことで、グループワークはかなり効率的に進められるようになります。Course N@viでも同様のことはできましたが、グループの可視化や権限の使い分けなどの設定はMoodleで行うほうがはるかに簡単だと感じています」。

生駒教授は、今後は成績評価にも新LMSを利用していきたいと考えている。「具体的には、課題が期日通りに提出されていれば、内容に関わらず100、遅れれば70といった点数を付けて、最後にすべてを合計してダウンロードしようと思っています。これまでMoodleではやったことがないので、成績評価についてはまだ試行錯誤の段階です（※）」。

※新LMSでは、履修者の成績を「評定」機能に蓄積することができます。蓄積した「評点」を新成績入力システムにアップロードすることができます。